

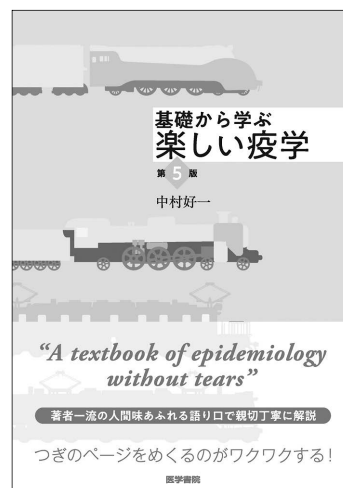
基礎から学ぶ 楽しい疫学 第5版

中村好一【著】

評者

佐伯圭吾

奈良県立医科大学教授・疫学・予防医学



川崎病やクロイツフェルト・ヤコブ病など難病の疫学研究で知られる中村好一先生による疫学入門書が、このたび改訂され第5版として刊行された。初版の出版から四半世紀を経てなお改訂が重ねられている事実は、本書が長年にわたり多くの読者に支持されてきたことを示している。本書の人気の理由は大きく三点に集約できるだろう。

第一に、本書は疫学を初めて学ぶ読者にも親しみやすいように、「基礎から楽しく学べる」工夫が随所に施されている点である。「疫学」という言葉には、どこか難解な学問という印象が付きまとう。しかし本書は、主要な疫学研究デザインの概要をコンパクトに把握できるように構成されている。とりわけ特徴的なのは脚注の使い方である。本文ではできる限り平易な言葉で簡潔に説明し、補足的な説明や背景知識は脚注に豊富に盛り込むという構成が採られており、読者は本文の流れを妨げられることなく理解を深めることができる。

第二に、全体が著者の一貫した

コンセプトで記載されている点である。複数の専門家による分担執筆で構成される教科書と比べて、本書は終始同じ視点と語り口で書かれている。そのため内容の統一感が高く、読者は疫学の考え方を自然な流れの中で理解することができる。

第三に、疫学研究の「周辺」に関する記述が豊富である点である。どのようなデータを用いて疫学研究を行うのか、どのような分析方法を選択すべきか、さらに研究を実施する際に必要となる倫理的配慮など、実際の研究にかかわる多様な側面について丁寧に解説されている。医学や疫学のみならず、法学にも造詣が深く、保健所での実務経験も豊富な著者ならではの視点が随所に反映されており、時に鋭く、時にユーモラスな批評を交えながら展開される解説は非常に興味深い。

このような特徴を挙げると、分厚く難解な教科書を想像する読者もいるかもしれない。しかし実際には全231ページとコンパクトで、文字もやや大きく読みやすい。通勤や通学の途中に読み進めるこ

ともできる軽快な読み物としても成立している点は、本書の大きな魅力である。初学者が最初知っておくべきテーマが巧みに選ばれており、本書を入口として、さらに深い学習へと進んでいくことも容易だろう。

疫学は人の集団を対象とする学問であり、さまざまな医学研究の基礎を成す分野である。本書は、これから医学研究を志す人だけでなく、医学研究の成果を実務に応用する医学系学部の学生にもぜひ手に取ってほしい一冊である。

なお、表紙のデザインや章間コラムの命名には、鉄道好きの著者の遊び心が反映されており、読み進める楽しさを一層引き立てている点も付け加えておきたい。

A5・240頁
2026年1月
定価：3,520円
(本体3,200円+税10%)
[ISBN978-4-260-06273-2]
医学書院刊